

普通に縛られる

南魚沼市立六日町中学校

二年 田村 風吹

皆さんが思う普通とは何だろうか。

私が小学校六年生の時、私は「自分にとっ

ての普通はみんなに通じるもの」だと思って

いた。みんな特定のものを知っていて、みんな

ながそれについて話せると。でもこれは間違

った考えだった。私が六年生の時の担任の先

生の言葉で、そう気付いた。「貴方にとって

の普通は他の人にとっては普通じゃない。」そ

う言われた。当時の私はそんなわけないと思

っていた。でも今は違う。

中学校に入学してから私は謎の体調不良に

悩まされることがあった。学校が嫌になっ

て休むこともあった。理由はクラスになじ

まないからではないかと考えた。自分が思

描いた中学校生活ではなかったのかもし

い。もっと楽しくて毎日行きたいと思える

活が送れる、そんなことを考えていた。でも人間関係もうまく付き合えないタイプだから周りの明るくて元気で社交的な人たちが多いクラスに少し戸惑いを感じた。自分と似ている人は少なかったけれど、無理やりにも仲良くなろうといつても明るく振る舞って、暗いと思われる本音は言わずに、みんなに合わせ一年を過ごした。そんなある日、私は六年生の時の思い出のものを見返していた。学級だよりを見て、担任の先生の言葉を思い出した。「普通じゃなくていい。みんなの普通は自分の普通じゃないから。」そんな言葉をふと思い出した。私は気付いた。「あ、周りに無理に合わせることはないんだ。」と。私の担任の先生はよく名言を連発する先生だった。先生の言葉はなんでも心に刺さった。一番印象に残った先生の一番心に刺さった言葉。「自分の普通はみんなの普通じゃない。」私は私でいい。貴方は貴方でいい。私はそう考えるようになった。

は いた。では、私たちはどうだろうか。正解はありふれ
あ ありふれたものだろうか。正解はありふれ
ふ ありふれたものだろうか。正解はありふれ
れ た。では、私たちはどうだろうか。正解はありふれ
た 。では、私たちはどうだろうか。正解はありふれ
の ことはなく、ありふれたもの「と記載されて
こ また、普通を辞書でひくと「特に変わった
ま また、普通を辞書でひくと「特に変わった
通 に無理に縛られる必要はないと私は考える
通 に無理に縛られる必要はないと私は考える
の は当たり前ではないだろうか。他の人の普
の は当たり前ではないだろうか。他の人の普
目 の前にいる人、周りにいる人と自分が違う
目 の前にいる人、周りにいる人と自分が違う
的 なものがあって、それらは人それぞれ違う
的 なものがあって、それらは人それぞれ違う
っ て、好きなものがあって、好きになる条件
っ て、好きなものがあって、好きになる条件
い るのも当たり前。みんなそれぞれ性格があ
い るのも当たり前。みんなそれぞれ性格があ
り 前。自分と違うのも、仲良くなれない人が
り 前。自分と違うのも、仲良くなれない人が
た 意見では全然違う意見が出るのなんて当た
た 意見では全然違う意見が出るのなんて当た
人 もいる。自分一人の意見と二人以上で考え
人 もいる。自分一人の意見と二人以上で考え
し れない。そして、私のことが苦手な人も何
し れない。そして、私のことが苦手な人も何
の 子のカリスマ性が苦手だったりしたのかも
の 子のカリスマ性が苦手だったりしたのかも
能 がうらやましくて認めたくなかったり、そ
能 がうらやましくて認めたくなかったり、そ
な 人なんて何人もいる。それは、あの子の才
な 人なんて何人もいる。それは、あの子の才
な 考えはやめるようになった。それに、苦手
な 考えはやめるようになった。それに、苦手
は 違うからあの子とは仲良くなれない。こん
は 違うからあの子とは仲良くなれない。こん
そ れでは、普通とはなんだろうか。自分と

。

。

たものではな。外見も、性格も、環境も、何もかもが違う。全く同じものなんてない。私たちの小さい頃の絵を見ると、きっと色々な色で描いているだろう。好きな色で好きなようにクレヨンを走らせていただろう。今でも、例えばゾウを桃色で描いても、海を赤で描いてもいいのだ。それは自由の証だからだ。普通に縛られない。本当の貴方はきっとどこかにいるはずだ。そして、私たちはいつからか普通に生きていて、普通にはなくて、普通に縛られて生きているのではないだろうか。私はそう考えた。理由は「周りの目」ではないだろうか。本当の自分を見せるのは怖い。その理由を自分が見せたら周りが離れていくのではな

いかと考えると足がすくむのが大体だ。私もそうだ。周りの目ほど怖いものはないかもしれない。それでも貴方に普通に縛られてほしくない。そのうち本当の自分を失ってしま

かもだからだ。周りの目、見えない鎖をほど

いて自分の好きなものを胸を張って言える、
そんな自分、そんな貴方、そう言える環境が
あるといいと私は思う。嫌われるのは貴方が
周りの普通に縛られず貴方は貴方で過ごして
いる証ではないだろうか。
では、「普通に縛られずに何でもしていい
と思う人もいるかもしれない。強ち間違いで
はない。でも、この言葉を利用して周りを傷
つける、人の事を考えない行動をするのは違
う。守るべきルールやマナーは当然ある。私
は、周りの普通に気付かないうちに縛られ、
悩んでいる人に向けて伝えていく。だから、
何でもしていいと言っているのではないのだ
そして、たとえ似ている人はいても同じ人
はいない。もし好きなものを否定されても「
私はこれが好きだ！」と胸を張って言ってほ
しい。私は、周りの普通に自分を縛るのは勿
体ないと思うからだ。だから私は、少数派の
意見も聞き逃さず、そういう考えもあるんだ
なと受け止め、自分が皆と違う意見だからと

恐
れ
ず
私
は
こ
う
だ
と
自
信
を
持
っ
て
主
張
し
た
い